

「開かれた門」 ー使徒行伝講解説教 27ー

使徒行伝 12章1節～25節

説教 本庄侑子牧師

使徒行伝12章に入りました。前章までに、各地で大きな動きが起きました。いよいよ福音が前進していくのかと思う時、しかし、教会は大きな困難に直面していました。

エルサレムの地で、教会がヘロデ王によって圧迫されていたのです。使徒のヤコブは剣で斬り殺されました。さらにペテロが捕らえられました。四方八方から縛られ、見張られ、逃げられません。教会もなす術がありませんでした。しかし、教会はそこで立ち止まりませんでした。集まって祈りました。八方塞がりでも天は開いている。そう知らされてきたからです。

教会が厳しい事態を前にしたのはこの時が初めてではありませんでした。これまでたくさんの痛手を受けました。人々は散らされ、ステパノは殉教しました。神様どうしてですかと叫ばざるをえないことが何度もあったのです。しかしその度に、教会は神様に向かって突進するようにして祈りました。

主なる神様は今も、イエス・キリストを十字架につけるほどの愛と赦しの御力によって、この世界を支配してくださっている。その事実を絶えず思い起こさせられ、祈らされてきたのです。教会を立てるなど誰一人考えもしなかった時、約束の聖霊が降って教会が立ちました。誰一人考えもしなかった異邦人に向かって、主なる神様が向かって行かれ、教会はその後をひたすらついてきました。

神様は私たちの視野をはるかに超えて、地の果てに至る一人一人にまでご自身の愛を現すためにその力を振るい、教会を立て、導いてくださる。私たちはその中に招かれて、今日まで用いられてきた。そう知らされてきたからこそ、彼らは真っ直ぐに神様に向かって祈りました。

そうして教会がペテロの為に祈っていた頃、今のペテロは眠っていました。少し前のペテロとは様子が違います。イエス様が十字架につけられる前のペテロは、あなたのためなら命を捨てますとまで豪語しました。しかし、今や何も持たずに無防備な姿で横たわっています。

あれからペテロはイエス様を裏切りました。一生裏切り者として生きていくことが自分には相応しい。そうすっかり諦めていたところに、死から復活したイエス様がもう一度会いに来てくださいました。とがめ、裁くためではなく、愛し、赦すため、そのようなペテロであること

をご存知の上で召してくださり、そのペテロの為にこそ十字架について死んでくださったこと。それらを、ペテロの心に染み入るような仕方でお語りくださいました。ペテロはこの時に至って、教会が祈ったのとは別の仕方、神様の手の中に自分自身をすっかり委ねるようになっていた。だから眠っていたのかもかもしれません。

その夜のことで、獄の中に主の使が遣わされて光が照らされました。ヘロデ王はペテロを閉じ込めたつもりでした。しかし、その力はペテロを閉じ込めることはできませんでした。本当の支配者である方がその中に入って来られ、具体的に働きかけられたのです。ペテロは目覚めさせられ、何が起きているのかわからないまま歩き出します。御使が離れると、はっと我に返って言います。主が救い出してくださったんだ、と。

ただ主の力によって獄の中に光が照らされ、外れるはずのなかった鎖が外れ、歩むべき道が与えられ、獄から出るための門が開かれました。あの朝、主イエス・キリストが墓を空にされたように、ペテロはただ、神の力によって獄から脱出させられたのです。

獄から出たペテロはヨハネの母マリヤの所に行きました。しかし、それがペテロだと誰も信じてあげることができません。彼らは集まって熱心に祈っていたはずでした。しかし、その祈りには不信仰が居座ったままだったのです。祈りが聞かれるのは、私たちの熱心さや信仰深さによるのではなく、主の憐れみによります。だから私たちは、自分の無力さや不信仰さを嘆くことなく、そんな自分自身をも神様の前に投げ出す様にして、大胆に助けを求めて祈っていいのです。

今年度最後の月を迎えました。皆さんもそれぞれ場所で、祈りながら歩いてこられたことでしょう。そして振り返ると、この時のペテロの様にはっと気付かされます。あれは神様の助けだったんだ、と。神様は自分の力ではどうしようもできないでいる私たちの現実の中に入ってきて、そこから生きて働いて下さるお方です。今週も、そして次年度も、この世界を、教会を、そして私たち一人一人を真実に愛し、獄の中に入ってまで働いて下さるお方が共におられます。

(記 説教要約奉仕者)